社会福祉法人 八千代翼友福祉会　広報誌

みどり

友愛みどり園
ケアホームもやい
移動支援事業所「ふくろう」
相談支援事業所 つ む ぎ
あ ご ら　ビータス
き ざ し

2022.11.10 vol.74

〒276-0040 八千代市緑が丘西 5-20-2
TEL 047-458-7477 FAX 047-459-9541
https://yokuyu.or.jp
E-mail: midorien@ca.wakwak.com

Contents

あごら …… 1P
友愛みどり園 …… 2P
アーティスト紹介 …… 2P
特集「魅了された人たち」 …… 3P
よくゆうぷちねっと …… 4P
最近気になるお野菜レシピ …… 4P

あごら

あごらでは放課後等デイサービスガイドラインの基本的姿勢にあるように発達支援を通じて子どもが他者との信頼関係の形成を経験し、この経験を起点として友達とともに過ごすことの心地よさや楽しさを味わうことで、人と関わることへの関心が育ち、コミュニケーションをとることの楽しさを感じることができるように支援しています。

桜咲く華やかな春、あごらでは新しく一年生のメンバーを迎えましたが、春は子どもたちにとって卒業や入学など環境に大きな転機がある季節です。期待に胸を膨らませる一方で大きな不安を感じている子どももいるのではないかと思います。あごらとしても、この時期特有の子どもの不安な気持ちをサポートし、いつにも増してしっかり見守ることが重要と考えています。そのため日頃から子どもとの丁寧なコミュニケーションを心掛け、子どもの微妙な気持ちの動きに寄り添うことで、子どもたちが活動の中で風通しの良い関係を築きながら葛藤を調整する力や主張する力、折り合いをつける力を育てられるよう取り組んできました。

具体的には集団活動の機会を増やし、それぞれの活動で子ども同士がかかわれるよう配慮をしました。子どもたちが道に咲く花や飛んでいる虫などを見つけ、そのことを共有できるよう散歩で自然探し体験を企画したり、風船バレーなど友達と協力し遊びをとおして協調性を育めるようなゲームを実施したりしました。また、夏休みに実施した様々なイベントにおいて一緒に調理をしたり、外出をしたり、祭りを催したりする中で協力して準備を行えるようにしたり、子どもたちが自分で好きな役割を担当できるようにしました。

このような取り組みをとおして、当初、職員とのかかわりが中心だった一年生も遊びや生活の面で子ども同士のかかわりが自然に増えてきました。上級生はお兄さん・お姉さんとして振舞いながら遊んだり、要求に応えたりする姿が見られ、一年生との間に良好な信頼関係が築けてきているようでした。

これからもゆっくりと時間をかけ、年長者と年少者の相互作用の影響や間接的な大人たちの働きかけによって子どもが育つことをサポートする姿勢で支援に臨んでいきたいと思います。

飯

友愛みどり園

こんにちは。今回は、農園芸班「あおぞら」で行っている活動をご紹介します。これまで農園芸班では、数年間に渡り、地域の協力農家様と連携し、野菜パックの販売を行ってまいりました。農園芸班で育成及び収穫した野菜と協力農家様から仕入れた野菜をまとめ、利用者のご家族・職員・地域の方々などへ販売していました。利用していただいていた方々からは、「毎回おいしい野菜をありがとう」、「次も楽しみにしています」などと、大変好評をいただいておりました。この活動は、法人理念でもある、『地域の人たちとの交流・共同を大切にし、地域に役立つ活動を展開する。またそれらの活動を通して「共に生きる」理念・方法の創造、発信を行う。』という理念に基づいたものであるとともに、こちらも法人が大切にしている「ほんまもん」を作り、地域に発信していくことにも繋がっていました。

ところが、協力農家様の生産体制変更に伴い、今年2月に野菜パックの販売が中止となってしまいました。

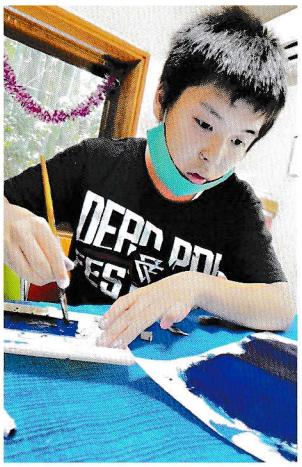
野菜パックの販売においては、農園芸班の利用者の方々に、集荷として野菜を協力農家様へ取りに行く作業、地域の方々へ配達する作業を行っていただいていましたが、これらの作業においては、利用者の方々に自分の作業としてやりがいや責任感を持ってもらうために、各三名ずつの利用者に担当していただいていました。担当の利用者の方々は、毎回その作業を楽しみにしている様子があり、職員の声掛がなくても、自主的に作業に取り組む姿が見られていました。

そのため、野菜パック販売に代わり、利用者と地域の方々が繋がりを持てる作業や発信できる作業を新たに行うことができないかと職員一同考えていました。すると、今回の特集記事にもあります、サンワックスの古沢様から、市内の公園で野菜の販売を行ってはどうかと提案がありました。

この提案をいただき、6月から北東部近隣公園にて、毎週木曜日、10時30分から11時30分の短い時間ではありますが、野菜の販売会を行っています。野菜の販売を通して、多くの地域の方々に友愛みどり園から発信を行うとともに、新たな繋がりを持つことができる機会となればと考えています。販売を開始してから間もないですが、すでに毎週欠かさず足を運んでくださる方もおり、確実に農園芸班「あおぞら」が地域と密に繋がる機会になっていると感じています。販売に参加している利用者の方々への温かい声もいただいています。何よりこの販売会では、利用者の方々が販売の時間を楽しみにし、笑顔で参加してくれています。この取り組みを今後も継続・発展させていき、利用者の方々にとっても、地域の方々にとっても、より良い機会となることを願っています。皆様もぜひお時間がありましたら、足を運んでいただきたいと思います。

（宮）

アーティスト紹介



ビータスは中・高校生が学校を終わったあとに過ごす場所です。中高生は思春期を迎える時期であり、身体だけでなく、心の発達にも大切な期間になります。そのためビータスでは運動だけでなく、創作や楽器体験などもおこなっています。これらの活動を通して利用者は想像力や豊かな感性を身につけ、新しい自分を発見することがあります。

アーティストの紹介ですが、ビータスの中には太鼓が大好きな「音楽家」、ダンスが得意な「ダンサー」、そして個性的な絵を描く「画家」などたくさんのアーティストがいます。今回紹介するのは「画家」佐々木煌也さんです。

ある暑い夏の日、庭で佐々木さんと一緒にホースを使い、水まきをしていた時の事。佐々木さんは乾いた地面にホースを使って、きれいに水を撒いていました。それはあたかも庭をキャンバスに見立て、自分の気持ちを表現しているようでした。そこで室内に入り、「好きなように描いてみよう！」と画用紙と絵具を用意すると「おっ！」といった表情で嬉しそうに絵具を選び、夢中になって色塗りを始めました。佐々木さんは青色が好みのようで画用紙一面を青色で塗った後、別の絵具箱からまた青色を探し出して何度も重ね塗りをします。そこには絶妙な濃淡が生まれ、独特な世界が広がります。その日以来、絵を描きたい時は道具箱から絵具を探すようになりました。パレットに絞り出される色はもちろん大好きな青色。「今日はどんな風に塗ろうかな？」と思いを巡らせた後、袖をめくりあげ、夢中になって絵を描き上げていきます。

佐々木さんの絵画制作に夢中になる姿を見てあることを思い出しました。20年以上前、あるテレビ番組で泥だんご作りに夢中になる子どもたちの姿を見ました。その目は爛々と輝き、一心不乱に自分の泥だんごを磨いていました。「泥だんご先生」こと加用文男氏はこんなことを言ってます。「子どもの時期に何かに夢中になれることはとても貴重。どんなことでもいい、子どもにとって『詰まった時間』を過ごしておくことが大切なのです」。

今も佐々木さんは絵を描いています。最近は使う色にも幅が出てきました。また、立体物（丸太を使った置物）にも色を付けるなど新しい自分を発見したのか、創作の幅がどんどん広がっています。「詰まった時間」を過ごした画家の10年後、20年後の作品が今からとても楽しみです！

（増）

特集

「魅了された人たち」

今回の特集は「福祉」とりわけ私たちが共に過ごしている知的障害児・者の方たちに魅了された方々へインタビューをさせて頂きます。

福祉とは無縁であろう方々が何故私どもとの関りをもって下さったのか!?「知らない」ことが間違ったイメージを抱いてしまいがちですが、知的障害に対してそのような先入観は無かったのか!? とても気になります。どのようなお話が聞けるのか、とても楽しみです。最近よく聞く「忖度なし」でお伝えいたします。

「魅了された人たち」、第１回目にご紹介するのは、「サンワックス」の古沢剛さんです。

Q：「サンワックス」、皆さんどこかで目にしたことはないでしょうか？ ヒントは、「公園」……!?
A：「サンワックス」は、八千代市の指定管理業者として、市内の公園の管理を担っている会社です！

その現場責任者である古沢さんときざしとの関わりは、２年ほど前までさかのぼります。コロナ禍にあり、学校でのボランティア活動等、普段の活動が制限されつつある中で、地域清掃の場を市内の公園に広げている時でした。古沢さんの方から我々に、「公園の清掃等できることを一緒にやってみませんか？」とお声がけ頂いたのです。

以降月に１度、八千代市総合運動公園を中心に、落ち葉集めやごみ拾いといった公園管理の仕事の一端を利用者と一緒になって行ってくれています。

もしかしたら「効率」としては、一緒に行う方が大変かもしれないのに!? そもそも、賑やかに？ ごみ拾いをしている「集団（きざし）」によく声をかけていただけたな…… と、お聞きしたいことはたくさんあります！ 以下、今回の主役の古沢さんへのインタビューです。

●なぜ知的障害者と積極的に関わろうと思ったのでしょうか？

→「前担当施設で紹介を頂き、一緒に作業（花壇作成等）を行っていました。その中で真摯に取り組む姿に感銘を受けたのが一番の要因です。」

●きざし利用者と一緒に活動（作業）をしていただく中で、楽しいことは何ですか？

→「作業を継続していく中で、立派な業務へと成長している事、利用者の皆様が公園利用者の方から感謝の言葉を直接頂け、表情に出る事です」

●気づいたことはありますか？

→「継続する事の重要さ、公園管理業務では活躍できる業務が沢山あるということです」

●気を付けていること（大事にしていること）

→「積極的に挨拶やコミュニケーションをこちらから取る事。　同じ目線に立って行動する事や利用者の方のペースを一番に考え、自分の考えや行動スピードに合わせようとしない事です」

●実際に一緒に過ごしてみて、関わりを持つ前と後で、気持ちの上で変化したことはありますか？

→「業務を補助して頂き、お願いをしている立場ですが、私の中では利用者や関係者の皆様をスタッフの一員として感じております。
特に近年のコロナ禍において人とのつながりが希薄になっている状況です。
毎月定期的に業務を行い、顔を合わせ一緒に作業をしながら利用者の皆様にも私や公園利用者の皆様とつながりを感じて頂けたらと考えております。」

集合写真：古沢さん写真右端

今では、みどり園の方達とも「スポーツの杜公園」の清掃業務を一緒に行うなど、利用者の活躍の場を広げてくれています。

インタビューのお答えからもわかるように、常に利用者と同じ目線で、「理解」をしようとしてくれている姿が印象的です。すぐに皆さんの名前を憶えてくれて、接するときは常に「○○さん～」と呼び、常に「ありがとう」と声を掛けている姿は支援者以上!? そんな古沢さんとの関わりや、公園で通行人に「ご苦労様」などと声を掛けてもらって嬉しいのは、利用者の方よりも支援員の方だったりもします（笑）

古沢さん、お忙しい中ご協力ありがとうございました。　（奥琢）

よくゆう★ぷちねっと

今回紹介したい公園は、イオンモール幕張新都心に隣接している「豊砂公園」です。この公園は、すべり台やブランコ、ターザンロープやアスレチックのような遊具のほか、障害の有無に関わらず、だれもが遊べるよう工夫された遊具（インクルーシブ遊具）が設置されているのが特徴です。豊砂公園を保護者の声を混ぜながら、紹介していきたいと思います。

保護者からの声

「駐車場から公園が近い方がいい」（小4・母）

豊砂公園は、イオンモール幕張新都心の1Fグランドスクエア入口を出て、道路挟んで向かい側に公園があります。また、公園の横には、最大料金600円のタイムズもあるので、公園から近い方がいいという方は、タイムズの利用も可能です。

保護者からの声

「多目的トイレがあるといい」（中1・母）（高1・母）

「清潔なトイレを使用するようにしている」（高1・母）

公園内に多目的トイレが一つあります。また、イオンモールが目の前にあるので、イオンモール内の多目的トイレも使用することができます。イオンモール内であれば、多目的トイレが設置されている場所も多いので、使用しやすいかと思います。

保護者からの要望

「広い公園がいい」（中1・母）（高1・母）

横長の公園になっており、遊具ブースと芝生広場に分かれています。遊具で遊ぶだけではなく、芝生広場でレジャーシートなどを広げ、家族でゆっくりしたり、公園の外周を散歩したりすることができます。土日祝日は、小さいお子さんが多かった印象があるので、少し時間をずらしたり、学校の振替休日などに行ったりすると、遊具も使いやすいかもしれませんね。

豊砂公園にぜひ一度、足を運んではいかがでしょうか。

㊤

★パート5　最近気になる

お野菜レシピ

宇宙芋

じゃがいもに似ている味ですよ！

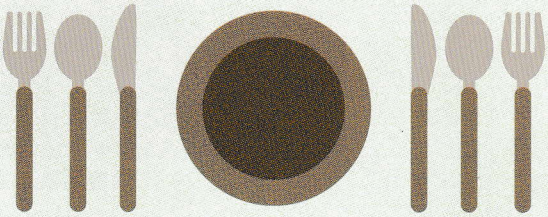
《サモサ風》 4人分

材料

- 宇宙芋 360 g
- 春巻きの皮 7枚
- 玉ねぎ 2分の1
- ひき肉 250 g
- Aカレー粉小さじ2
- 塩小さじ1
- クミンパウダー少々
- コショウ少々

つくり方

1，宇宙芋は皮をむいてチンして柔らかく。玉ねぎはみじん切り
2，1とAをボールに入れて混ぜる
3，春巻きの皮を縦長3等分に切る
4，皮の手前に2を置き三角に折っていく終わりは水を塗って貼り付ける
5，揚げ油であげて完成



㊥